

◆経済倶楽部講演会第4415回（5月20日）

ロシアのウクライナ侵攻後における ソフトパワーEUの現状と展望

中央大学総合政策学部教授 庄司 克宏

- * 4月選挙の結果は互角
- * 注目すべき「ブリュッセル効果」
- * 冷戦後の秩序崩壊とは何か
- * 顕在化したEU統合の揺らぎ
- * 英・EU関係はどうあるべきか
- * ソーシャル・ポピュリズムへの懸念
- * 移民より生活費高騰が最大の関心事に
- * 専制化リスクは回避できるか
- * 日本とEUの関係について
- * EUはハンガリーにどう対応してきたか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は1年ちょっと前にもお招きいたしました。が、現在中央大学で教授をしておられます庄司克宏先生においでいただきました。庄司先生は1957年のお生まれで、慶應義塾大学を卒業後、慶應義塾大学の教授をされ、つい最近、定年を二年後に控えまして中央大学のほうへ移られました。EU、ヨーロッパがご専門でございます。当会でも何回かご講演をいただいております。

ウクライナ戦争ということでヨーロッパが大きく揺れ動いて変貌しているということでございますので、今日はそこら辺のことをお話しいたします。

それでは庄司先生よろしくお願いたします。

4月選挙の結果は互角

庄司 皆様こんにちは。（拍手）

ただいまご紹介にあずかりました庄司と申します。

今日は「ソフトパワーEUの現状と展望—ウクライナ危機を踏まえて—」というテーマでお話をさせていただきます。ちなみに資料の表紙にある電話をしている方はどなたかご存じでしょうか。この方はいこの間日本にも来られ、広島にも行きました。シャルル・ミシエル欧州理事会（EU首脳会議）の常任議長です。新聞報道ではEU大統領とも呼ばれている人で、何とこの人が今電話している相手がプーチン大統領です。プーチン大統領と電話で会談をして、